

ICT技術の例

設備名称	紙文書電子化システム	デジタルサイネージ			セキュリティ関係システム	公衆無線LANシステム
		システム構築	端末（庁舎モニター）	端末（障害者案内・検索表示）		
イメージ						
システム機能	<ul style="list-style-type: none"> 紙・電子文書の共存環境に対応し、受領から保存、廃棄、移管に至る文書のライフサイクルを管理できる 文書の作成、管理、決裁、保存を一元管理することにより、情報公開、個人情報の保護が行える 紙・電子文書の完了後はファイル単位で集中管理ができる 紙ファイルの集中管理で書庫や棚の位置を特定することができ、貸出管理も容易に行える 	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツの制作・管理及び編集をすべて管理サーバまたは専用パソコンで一元管理 端末画面の表示や編集、テロップなどを一括制御可能 配信コンテンツはHTML、静止画像（JPEG/BMP）、動画などを利用可能 	<ul style="list-style-type: none"> 表示画面全体への割り込みと、テロップ部分のみの割り込みなどを使い分けできる。割り込みは、モニター単位で任意に選択可能 コンテンツ表示にBGMを流すことができる 登録されたデータは、自動的にスケジュールで表示切替が可能 休業日の設定により、表示端末のON/OFF制御が可能 簡単に操作できるタッチパネル仕様が可能 	<ul style="list-style-type: none"> タッチパネルで庁舎案内、議会議案内、イベント案内などの検索ができる 点字付音声案内により、視覚障害者への対応を可能 手話画像により、庁舎内の各案内ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 執務室やフロアの警備セット（最終退室）に連動して、該当エリアの照明や空調OFFにより、消し忘れによるエネルギーロスを抑止 エレベーターかご内のカードリーダーで個人認証を行い、権限に応じて行き先階を制限可能 セキュリティ扉の通行ログを活用して、出退勤の管理が可能 火災信号により、避難経路にあたる扉を自動的に解錠 	<ul style="list-style-type: none"> パソコン、スマートフォン、タブレットの対応可能 利用者には直接サーバにアクセスせず、通信キャリアを経由して情報通信 通信キャリア社に運営委託が可能
システム導入メリット	<ul style="list-style-type: none"> 業務処理の迅速化 紙文書の削減より、保管コストを削減 電子データにより転送することで運送コスト削減 紙文書の紛失リスクが低下 起案文書の電子化により、完結までの時間が短縮 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの情報を提供 掲示内容をスピーディーに変更 	<ul style="list-style-type: none"> 設置の柔軟性 人件費及び紙コストの削減 癒し系コンテンツを表示することで、好感度が向上 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者、障害者を含めた誰もが活用 国の方針【情報バリアフリー】に向けて実現 	<ul style="list-style-type: none"> 消し忘れ防止より、無駄なエネルギー使用を削減 エレベーター着床制限により、セキュリティの信頼度が向上 出退勤管理の連携により、シンプルなシステム構築が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 庁舎情報セキュリティが高い 災害時において通信手段の充実・改善
導入時期	現庁舎にて公文書の決裁システムの電子化は構築されている	市民サービスの一環として、新庁舎建設時に導入が望まれる端末（タッチパネルや大型モニターなど）の選定や配置は、今後の検討とする	市民サービスの一環として、新庁舎建設時に導入が望まれる端末（タッチパネルや大型モニターなど）の選定や配置は、今後の検討とする	市民サービスの一環として、新庁舎建設時に導入が望まれる端末（タッチパネルや大型モニターなど）の選定や配置は、今後の検討とする	省エネ対応として、新庁舎建設時に導入が望まれる	市民サービスの一環として、新庁舎建設時に導入が望まれる

設備名称	無線LANシステム（VLAN）	環境制御システム	環境監視システム（見える化）	ペーパーレスシステム	ペーパーレス会議システム
	イメージ				
システム機能	<ul style="list-style-type: none"> パブリック型無線LANで来庁者に市民情報サービスを提供 庁舎の業務サーバを使用し、無線LAN設備で庁舎の情報を公開する ID認証によるアクセス権管理で、公開内容を職員用と来庁者用に区分できる 職員のID認証によりアクセス権を制限し、部署の情報公開を特定な職員に限定できる パソコン、スマートフォン、タブレットの対応可能 	<ul style="list-style-type: none"> 自席の端末からWi-Fiを経由し、執務エリアの照明や空調のコントローラに信号を送り、照明器具のON/OFF・調光と空調設備のON/OFF・温度調整を操作できる 	<ul style="list-style-type: none"> 電灯やコンセント、空調や水道、ガスをなどを個別に監視・表示できる 時間別、日別、月別、年別に消費量を統計、表示できる エネルギー消費量の目標値の設定が可能 表示アイコン色の变化、点滅、警告音により効果的な「見える化」を実現 エネルギーの計測、監視、共有化、可視化、分析ができる 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインでの閲覧ができる 不正アクセスの検出やリモート削除、ファイル暗号化による高度なセキュリティを実現 ドキュメントの一元管理が可能 更新が容易で、即時反映できる 	<ul style="list-style-type: none"> PC、スマートフォン、タブレットのデータをWi-Fiを経由し、モニターやスクリーンに投影できる 複数端末の電子データをワイヤレスで画面表示できる 複数の電子データをWi-Fi端末を増設することで、同時に投影画面に表示できる 紙文書と同等の使い勝手を実現
システム導入メリット	<ul style="list-style-type: none"> サーバの設置数を削減 配線の本数、工事費用が削減 ネットワーク管理が容易、追加・移動及び変更は簡単に実現 災害時において通信手段の充実・改善 	<ul style="list-style-type: none"> ワイヤレスコントロールにより、配線工事費が不要 各個人設定により照度や温度の違和感を解消できる 細かい制御により、省エネを実現 照明や空調の工事が不要なため、間取りの変更が比較的自由にできる 	<ul style="list-style-type: none"> 設備毎で監視・表示ができるため、細かな省エネ意識の向上を図れる 設備毎で計測データを分析し、エネルギー改善に寄与する スマートセンサーで温度・湿度を表示するため、快適な執務空間を実現 	<ul style="list-style-type: none"> 大量の資料を大量印刷する必要がない 会議において電子データの配布、閲覧、修正を行うことで、紙文書の削減を実現 動画・音声コンテンツの発信ができるため、分かりやすいプレゼンテーションが可能 不正アクセスを検出したら、全データを自動削除し、資料の保管コストとリスクを低減 	<ul style="list-style-type: none"> 会議の準備時間が短くなる 会議室内に限らず、さまざまなスペースで会議ができる 紙文書が不要となり、印刷・紙コストを削減できる 打合せ議事録などをその場で作成、確認、保管でき、文書保管スペースを削減
導入時期	新庁舎建設時に導入が望まれるが、現時点ではセキュリティの確保などに技術的課題がある	費用対効果の検証により、新庁舎建設の際に導入するかどうかを判断	費用対効果の検証により、新庁舎建設の際に導入するかどうかを判断	新庁舎建設後に、必要に応じて導入できる仕様としておく	新庁舎建設後に、必要に応じて導入できる仕様としておく